

国内事業

PPP、CMの積極活用を

国交省

国土交通省の「建設業等の国際展開支援(合研究所会合)」は13日、建設業の海外進出を推進するための提言を大筋でまとめた。政府が講じるべき支援策として、日本の建設業が持つ優れた建設技術やノウハウを「JAPAN建設ブランド」と位置付け、海外市場に戦略的に売り込んでいく必要性を指摘。海外プロジェクトでの採用が多いパブリック・プライベート・パートナーシップ(PPP)やコンストラクション・マネジメント(CM)などの手法を国内の公共事業で積極的に活用することも求めた。

建設業の海外進出へ提言

技術基準を標準化

提言では、べき事項をそれぞれ示した。国内の建設市場が縮小傾向にある中で、今後の拡大が見込まれる海外建設市場を開拓するため、政府と建設業が取り組むべき事項をそれぞれ示した。政府の役割としては、国際展開を支援していく建設技術やノウハウを特定した上で、政府レベルでその売り込みを図ることとを第一に挙げた。建築物の耐震化・環境対応といった分野を念頭に、日本が持つ技術基準・ガイドラインを国際標準化するとともに、海外建設事業に関する相談体制を構築することも提案した。また、建設業が海外建設プロジェクトで必要となる人材やノウハウが蓄積できるように、国内の公共事業でPPPやCMといった

官庁施設保全連絡会議

環境負荷低減に理解

国をはじめとした県内官庁施設の各管理者らに



よる連絡会議が15日、鹿児島市の鹿児島地方合同庁舎であった。県庁舎の施設管理者ら約40人が出席し、庁舎機能の保全に理解を深めた。連絡会議では、九州地方整備局営繕部の保全・指導担当者や鹿児島県営繕事務所の担当技官らが説明。国家機関の建築物等の保全に関するポイント、執務環境の安全衛生確保や環境負荷の低減にあることを強調した上で、

鹿市行政評価市民委

39事業で経費節減



第1回鹿児島市行政評価市民委員会が15日、市役所であった。市役所であった。20年度の改善状況として、39事業で経費節減が図られた。これまでに達成状況(18/20年度)を見ると、内外部で評価を実施し、改善対象事業数は164事業。そのうち、事業手段の見直しは、手段の改善等104事業、事務事業の統合・振替24事業の計128事業で行った。このほか、縮小8事業、

国土交通行政功労表彰

優秀現場代理人に前田氏

国土交通省九州地方整備局は、21年度国土交通行政功労表彰の受賞者を

発表した。対象は、優秀現場代理人・主任(監理)技術者21人、優秀建設現場従事者(技能職)21人、優良施工業者(工事・業務部門)40社、安全施工業者18社、災害復旧等功労業者4社など。本県からは、優秀現場代理人・主任(監理)技術者表彰に前田厚巳氏(斉藤建設)が選ばれた。表彰式はきょう17日午前11時から、福岡市の福岡第二合同庁舎で開かれる。本県関係の受賞者は次の通り。

- 【道路モニター】上床
- 【優秀建設現場従事者(技能職)】宮内正治(熊本日本運輸建設)▽
- 【優秀現場代理人・主任(監理)技術者】前田厚巳(下谷川護岸・第2工区)
- 【優秀建設現場従事者(技能職)】宮内正治(熊本日本運輸建設)▽
- 【安全施工業者】(熊本)林緑化(鹿児島市)▽国道10号外道路植栽維持▽豊明建設(鹿児島市)▽鹿児島船舶基地建築▽(熊本)森山鋼組(鹿児島市)▽志布志港(若浜地区)防波堤(沖ヶノ森)製作▽(熊本)吉留組(東串良町)▽夏井地区防災
- 【災害復旧等功労業者】斉藤建設(鹿児島市)▽下谷川新栄地区緊急災害復旧

1級建築・電気施工管理検定
学科 きょう、合格発表

建設業振興基金はきょう17日、1級建築と1級電気施工管理技術検定学科試験の合格者を発表する。1級建築は2万5195人が受験し、8782人が合格(合格率34.9%)。1級電気は受験者1万8331人中、5266人が合格(合格率28.7%)した。合格者は、10月18日の実地試験に進むことができる。なお、福岡、沖縄地区の合格者番号は本紙ホームページで配信する。

全国街路事業コン
優秀賞に「八代
緑の回廊線」

全国街路事業促進協議会は、全国街路事業コンクールの入賞事業を発表した。国土交通大臣賞は、高知県土木部が手掛けた「JRT土讃線連続立体交差事業」が受賞。九州では、「八代都市計画道路八代緑の回廊線」(八代市建設部)が優秀賞(一杆建築都市計画道路事業宗近魚町線(大分県土木建築部)が特別賞に選ばれた。

エピソード(8)

山田氏の
コズミックタウン
挑戦日記

安中真介

翌朝、空には台風一過の独特の青空が広がったが、地表は無残であった。研究所の地下は、完全に水没し、立ち入り不能になっていた。地下への搬入路の坂が、海の波打ち際みたいになっていた。それでも、排水ポンプは動き続け、排水管を通り、調整池まで地下水の水を掻き出し続けていた。しかし、その水は、見えない地中水路を通り、再び建物の地下へ流入してくるのだ。果てしない無限ループの繰り返しである。



山田は、呆然としている施設課の課長に、この様子を確認してもらい、これ以上、いくらポンプを回しても何の意味もないこと、地下の排水のためには、別のポンプを入れ、敷地境界の低い排水路まで持っていくしかないことを告げた。声もなくうなずく課長の許可を取り、山田は、ポンプのスイッチを切るよう命じた。心の中で、一晩中頑張った排水ポンプたちに「ありがとう」と言いながら。翌日、山田は、研究所の施設課に向かった。施設課の課長は、水没した地下施設の修復と排水設備の経路変更、調整池の再構築などの工事依頼を山田にした。緊急の特命工事ということで、見積り金額のままの発注を約束した。(木・金・土曜日に掲載)